

神舞

二〇二四
千年の時を紡いで



神舞

山口県指定無形民俗文化財
大分県選択無形民俗文化財

平成 16 年度「むらの伝統文化顕章」農林水産大臣賞受賞

平成 18 年 「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」農林水産大臣賞受賞

8/16(金) 入船・神楽

- 9:00 御座船が大分県伊美港を出港
- 11:00 権伝馬船等お供船が祝島三浦沖でお迎えし、御座船、お供船とも隊列を整えて本浦へ
- 12:00 御座船、お供船、権伝馬の船団は本浦沖で三回回ります
- 13:00 御座船から神様が上陸、島民そろって出迎えます
シャギリ隊等が先導して仮神殿に向かいます
- 舞場到着後 神幸着御祭、御宿の式
- 15:30 祈願神楽が始まります
岩戸神楽 5 番が舞われます

8/17(土) 神楽・宮参り

- 9:00~ 岩戸神楽 11 番、夜戸神楽 5 番、間に舞添え神楽が舞われます
- 15:00 岩戸開き
(予定)
大歳神社参拝



時刻は目安で流動的です。

8/18(日) 神楽・出船

- 9:00 子供神楽と舞添え神楽
- 11:00 御宿の式、還幸出御祭
- 13:00 神様が御座船に乗船
- 13:15 権伝馬先導で御座船、お供船の出船パレード
- 14:00 御座船が伊美港に向けて祝島を出港
- 16:00 伊美別宮社着

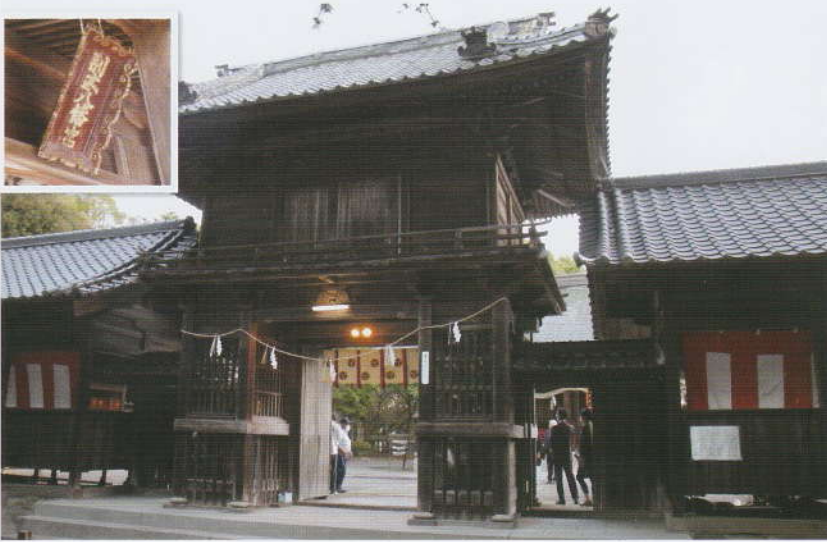


神舞の由来

仁和2年(886年)当時の領主片見貞信の命により山城国石清水八幡宮の御分霊を勧請の時、桐畑盛重、小深田盛勝が供奉しての帰路、嵐にあい祝島の三浦に立ち寄りしました。この時三軒の民家がありましたが、島の方は神を祀ることや農耕の道を知らず、厳しい自然環境の中にありましたが、一行を心よりもてなしました。それを機縁に宮司はこの島に荒神と大歳神を祀らせ、麦の種を渡して農耕の技を教えました。

それにより祝島は人家も増え、人々は健康に暮らし、次第に繁栄するようになりました。そのお礼にと祝島から伊美別宮社に『お種戻し』と称し毎年参拝するようになりました。そして別宮社から四年ごとに新幣を奉持して海上を渡御する祝島への御神幸を、御神霊と側近奉仕の宮司・欄宜と別宮社里楽師により、祝島を齋場にして神恩感謝の合同祭事として大祭が執り行われることになりました。神舞神事とは一口で言えば神舞を奉納する祭であり、古代の恩に感謝し、別宮社の御神霊にお供物をもてなし、神舞を奏してお慰めする神事であります。

大分県と山口県との海上49kmを三隻の神様船が往復し、奉迎船や權伝馬船による入船・出船神事があり、伝統ののっとり、古式豊かに神舞が奉納されます。



伊美別宮社

大分県国東市国見町伊美

祭神

品陀和気命 (応神天皇)

帯中日子命 (仲哀天皇)

息長帯比賣命 (神功皇后)



毎年10月15日の例大祭には、流鏝馬が行われる。

その前日宵宮祭で、神楽が奉納される。

別宮社の神事には岩戸神楽24番、夜叉神楽12番、3番神楽1番と無言の舞1番があり、また祝島のみで舞う八重書垣と梓弓の2番がある。神楽歌は概ね古今集風のもが多く、神懸かり歌なども古今集の歌を取り入れている。

また、1番神楽の出立ちの唱詠は和漢朗詠集によるもので、この神舞の成立年代にかかわりを持っている。





▲鳥居の額は、粟・ヤイナリ・大角豆・大豆・小豆の五穀で作られている



▲神舞仮神殿を島民の力で建てていた



▲にぎやかかりし頃



▲入船・出船には、島が沈むといわれるほどのたくさんの人で迎え、そして見送る



山桜

その昔、春には、二百種類にもおよぶ山桜が、次々と咲き乱れ、島全体が桜色に染まる様は「海上吉野の千本桜」と呼ばれ、各地から御座船を仕立て花見に訪れていたそうです。

近海では、この時期、子育てをするクジラが集まり潮を吹く様と、島を覆い尽くすほどの山桜が織りなす風景がそれはそれは見事だったそうです。優しい桜色が順々に咲き誇る山桜は、今もなお、私たちの目を楽しませてくれます。



平さんの棚田

大正時代の終わり頃から約 30 年をかけて親子三代で、重機も使わず「てこ」で造りあげた日本最大級の美しい棚田。

急勾配の土地を切り拓いて、広く平らな田んぼを造るため、高い石垣が築かれました。

「谷積み」という手法で積み上げられた石垣は、数トンもある巨石から小石まで理想的な配列がなされています。石垣の最も高いところは 9m もあり、そこからの眺めは絶景です。集落からは約 4km、歩いて 1 時間ほどかかりますが、一見の価値があります。(2016 年から休耕中です。)



石積みの練塀(ねりへい)

石と土を積み重ね、しっくい固めた祝島独特の塀は「練塀」と呼ばれ、江戸時代の後期より作られ始めたと言われています。

夏は涼しく、冬はあったかい…

家と一体化したようなこの練塀は、吹きさらす強い海風や台風などから一軒の家だけでなく集落そのものを守ってくれます。

また、防火の役割も果たされ、補修されながら今もその街並は守られ、受け継がれています。

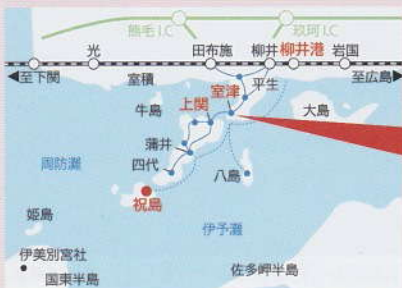
平成 18 年「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に神舞とともに選ばれました。



上関航運 TEL 0820-62-0102

下り				上り			
柳井港	室津	上関	祝島	祝島	上関	室津	柳井港
	6:10		6:38	6:45	7:20	7:25	7:55
9:30	10:00	10:05	10:40	12:30	13:05	13:10	13:40
15:45	16:15	16:20	16:55	17:05	17:40	17:45	

※車では行けません。室津駐車場をご利用ください。※その他臨時便あります。



ヤンマー(岩本) TEL 0820-66-2040
清水丸(清水) TEL 0820-66-2206

みさき旅館 TEL 0820-66-2001
民宿くにひろ TEL 090-1332-4897

民泊おかべ TEL 0820-66-2201

民泊ことぶき亭 TEL 080-5620-1506

※神舞期間中、みさき旅館・民宿くにひろ・民泊ことぶき亭は、伊美の神職・里楽師様の宿泊所となりますのでご了承ください。

お食事処 古泉 TEL 090-6906-3644
喫茶 岩田珈琲店 TEL 0820-66-2550

喫茶軽食 わた家 TEL 090-7544-8169

祝島と伊美をつなぐ神舞が今年実施の運びとなりました。伊美と祝島双方がそれぞれ継承して千年余も続けてきた祭です。祝島をふるさと思ふ人たちの支えの賜物でもあります。今までのように盛大にはできませんが、開催できることが誇りであり、帰省あるいは島を訪れてくれる方たち共々島での時間を共有して頂くことが祝島の喜びでもあります。

神楽の伝承にご尽力いただいている伊美別宮社の神職、里楽師の皆様への感謝と敬意と併せて、これから先も続けていける形を探りながら皆様とともに作り上げていく祭にしていきたいと思ひます。

今後共ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

祝島自治会・祝島神舞奉賛会

山口県熊毛郡上関町祝島 代表 木村 力

<http://www.kvision.ne.jp/~kvn2062981/>

祝島神舞令和 6 年

検索

